

○各種会議や説明会などでのご意見確認一覧

分類	意見内容	復興計画への反映	摘要	備考
鉄道及び駅	津波により、浸水の影響が少ないエリアで鉄道を整備する。	○	(P.25①参照) JR常磐線は、津波被害の小さかった国道6号側へ移設し、…。	震災復興会議
	宮城病院付近に新駅を設置して欲しい。	×	JR東日本では、「新たに駅を設置することは難しい」とのことであり、今後の宮城病院周辺の土地利用が進む中で、必要性が確認される段階において、改めて整備を要望していきます。	震災復興会議
	通勤・通学での利用者の安全を考え、今回の震災で津波が来た線路は移転すべき。	○	(P.36④参照) 安全・安心な運行とまちづくりに合わせた新路線及び…。	パブリックコメント
	鉄道は現況ルートでJR山下駅の仮復旧を決定して、JR東日本へ着工を要請してほしい。	×	JR側では、仮復旧をして将来新しいルート整備をした場合、原位置暫定復旧は2重の投資になることから、原位置での仮復旧は難しいと考えているようです。 また、仮に原位置復旧すると、山下駅は交通結節点という位置づけになり、幅の広い道路やバスプール等が収容可能なスペースを持つ機能を求められますが、山下駅前における交通処理機能不足から、現有施設のままで供用は物理的に不可能と考えているようです。	パブリックコメント
	新たに堤防や防災緑地等の整備(多重防御)を行うのであれば、現在の山下駅、坂元駅で安全ではないか。	×	今回の津波を防御するには20mの堤防が必要となりますが、これは現実的ではないため、本計画では多重防御による減災という考え方を基本としています。新しい堤防や防災緑地、県道の高上げは、今回のような規模の津波に対し浸水被害を防ぐことはできませんが、避難するための時間を稼ぐものとして位置付けています。したがって、これらを整備しても現在の山下駅及び坂元駅の安全性が確保されるものではないことをご理解ください。	住民説明会

○各種会議や説明会などでのご意見確認一覧

分類	意見内容	復興計画への反映	摘要	備考
多重防御	沿岸部の土地利用は、減災を視野に入れた「防災緑地」として利用し、また防災緑地に使われる樹木の種類は、根が深く張るものを選定するべきである。	○	(P.5 (2) ③参照) 津波被害の減災を図るため、沿岸部を防災緩衝地とし、…。	震災復興会議
	農免農道を高上げたらどうか。	×	トラクターの出入りなどの状況を踏まえながら検討していきたいと思います。	住民説明会
災害危険区域・建築制限	山下駅南側での居住地エリアを、ある程度の自己責任を認めたくうえで、増やしてもらいたい。	×	今時津波の浸水深や、多重防御施設を考慮した、津波シミュレーションにより、3mを超えるエリアについて、「災害危険区域 第1種」の指定を行い住居新築を禁止しています。よって、第1種区域内において、居住地エリアを広げることはありません。しかし今後、多重防御施設が建設され次第、改めてシミュレーションを行った上で、災害危険区域を見直すことも検討していますので、ご理解願います。	震災復興会議
集団移転事業関係	今までの居住地に配慮し、もう少し南北に広がるように、移転対象地を増やしたい。	×	復興計画の土地利用方針では、居住地ゾーンとして4つのエリアを示しております。その他エリアの造成については、今後各行政区との打ち合わせを重ね、検討を行います。	震災復興会議

○各種会議や説明会などでのご意見確認一覧

分類	意見内容	復興計画への反映	摘要	備考
災害公営住宅関係	みなし仮設住宅扱いである「民間賃貸住宅」については、2年間の期限であるため、災害公営住宅整備を、その時期に合うように整備するべき。	○	(P.8②参照) 新しいまちづくりを先導する形で災害公営住宅を建設し、安定した生活基盤を提供することにより被災者の早期生活再建を図ります。	震災復興会議
	公的住宅の供給について、入居可能時点でローンの負債がある家庭、失業・低賃金のため新ローンを組めない家庭等々入居できるようにしてほしい。	×	災害公営住宅は、今回の震災により住宅を失った方であれば入居可能です。現在、平成25年3月の一部入居を目指し、準備を進めており、また国に対し、建設に係る補助要望をし、400戸程度の建設を予定しております。	パブリックコメント
住まい	これまでと同じように、農地と住む場所が近くなるように対応したい。	×	集団移転事業では、宅地について買い上げを行います。農地についての買い上げは行いません。新しい居住地から農地へ通うこととなりますが、その所要時間を短くするなど、問題点解決に向けて、今後も検討していきます。	震災復興会議
	空きの仮設住宅について、新たに入居できるように対応してほしい。(民間賃貸住宅→仮設住宅 など)	×	今後の仮設住宅活用については、被災者のニーズに応じれるよう検討していきます。	震災復興会議
インフラ	常磐線を今回の津波被害を避けた箇所へ移設し、現在の常磐線の軌道を嵩上げて、陸上防波堤と兼用の高軌道路とすべき。	○	(P.34①参照) 沿岸部の県道相馬亘理線については、津波被害への防御・減災機能を併せ持つ高盛土構造による道路整備を要望します。	パブリックコメント
	各施設(避難施設)へのアクセス利便の向上が重要である。(道路網整備)	○	(P.10⑥参照) …狭い場所の拡幅や交差点の改良を進めるとともに東西の新たな道路整備を進め、迅速な避難ができるようになります。	震災復興会議

○各種会議や説明会などでのご意見確認一覧

分類	意見内容	復興計画への反映	摘要	備考
整備	常磐道のスマートICは、山側の開発などに、大いに役立つ。	○	(P.10⑥参照) 県道角田山元線付近にスマートICの設置を要望し、新坂元駅周辺の交通利便性の向上を図ります。	震災復興会議
	県道相馬亘理線を盛土とすると、そこにつながる道路は坂道になるが、極力県道につなげ、アクセスを確保してほしい。	×	県道への各道路の取り付けは、斜めの坂による接続を考えていますが、すべての道路が県道に取りつくかは今後の検討となります。	住民説明会
教育・医療・福祉	子どもの遊び場がないので、子供が楽しく暮らせるまちづくりを考えたい。	○		震災復興会議
	まちづくりだけでなく、人づくりも大事である。高等教育施設のない山元町民は亘理町以北に転出してしまうのではないか。	×	高等学校については、一時町内に、との運動もありましたが、今はありません。	住民説明会
産業振興	町の特産品として、「何を売りとするのか」を明確にすることが大事。	○		震災復興会議
	使えなくなった農地の代替地を、町が示す場所に整備を進めてほしい。	×		震災復興会議
	新駅の周辺に、「地産地消」を掲げた駅前商店街が必要ではないか。			パブリックコメント
	住宅団地に隣接したいちご畑・観光農園の集約地を整備してほしい。	○?	(P.32①参照) 高度な営農を支援するとともに、効率的な栽培施設の設置を促進し、収出荷量と収益の増大を図ります。	パブリックコメント
	防災緑地ゾーンにはレジャー施設を建てるだけでなく、人の心を温かくする植物を植えてほしい。	○	((2) 産業④観光参照) 耕作放棄地等を活用したお花畑や、戸花山での桜の植樹など花の名所の整備を促進し、花を活かした交流拠点化を図ります。	住民説明会

○各種会議や説明会などでのご意見確認一覧

分類	意見内容	復興計画への反映	摘要	備考
	漁業のことについて書かれていない。	○	((2) 産業②水産業参照) 国・県・漁協など関係機関と連携しながら、特産品であるホッキ貝漁を中心に本格的操業の再開を支援します。	住民説明会
避難 安全対策	住んでいる場所や町のあらゆるところに標高などがわかるように道標を設置して欲しい。(サイン計画)	○		震災復興会議
	避難所及び防災マップの再構築や避難ルート確保をお願いし、避難ルートでは防災無線が聞けるように対応願いたい。	○		震災復興会議
	現在の位置のJR常磐線線路や県道のそばに、備蓄倉庫の役割を持つ緊急避難場所を整備してはどうか。	○	(P.38①参照) 災害に備えての食料や飲料水、防寒品等の備蓄を行う等、大規模災害への備えを整えます。	パブリックコメント
	防波堤や道路などのハード面も重要だが、すべてをカバーするのは難しいので、いざというときに逃げられる安全なまちとする計画としてほしい。	○	((5)防災・安全・安心②安心安全な社会)整備されたソフト対策とハード対策を有機的に活用し、行政や自主防災組織などが連携した効果的な防災対策を確立します。	住民説明会
	20mの高さの堤防で千年に一回の津波を防げるのであれば、それをつくれば良いのではないか。	×	20mの高さの堤防を作ることは、現実的ではないため、本計画では多重防御による減災という考え方を基本としています。	住民説明会
事業計画・スケジュール	人口推計数値を、「期待的数値」ではなく、「現実的数値」とした方がよい。	×		震災復興会議
	より具体的に、スピーディーに事業を進められる「スケジュール」を示してほしい。	○		震災復興会議

○各種会議や説明会などでのご意見確認一覧

分類	意見内容	復興計画への反映	摘要	備考
	町独自の放射能対策、自家消費作物の放射能汚染調査を講じてほしい。	○	(p.31①参照) 農業関係機関と共同で放射線量測定器を保有し、町内で生産される農畜産物の安全・安心を周知します。	パブリックコメント
原発対応	農作物を生産する者としては放射能が気になる。数値的データがあれば安心して営農できるので、町としても数値のチェック体制をもっていたきたい。	○	((2)産業①農業参照) 農業関係機関と共同で放射線量測定器を保有し、町内で生産される農畜産物の安全・安心を周知します。	住民説明会
代行(町民)バス	町独自で岩沼駅や仙台駅に直接運行する「代行バス」を検討してほしい。	○		震災復興会議
自然エネルギー	沿岸地区において、太陽光発電所や風力発電の基地を整備してはどうか。	○	(P.29②参照) 住宅用太陽光発電所を積極的に導入するなど、自然エネルギーや省エネルギーの普及・促進を行い、環境配慮型のまちづくりを進めます。	パブリックコメント
その他	実行性をもった計画にしてほしい。(財源確保)			震災復興会議
	墓地の再編整備など検討が必要。			震災復興会議
	山下第二小学校・中浜小学校を、震災モニュメントとしてはどうか。	○	(P.34④参照) 防災緑地ゾーンにおいて、震災の記録を残すモニュメントや豊かな自然環境を活かした公園・海洋レジャー施設等の整備により、人々が憩い集う新たな観光資源の創出を図ります。	パブリックコメント

○各種会議や説明会などでのご意見確認一覧

分類	意見内容	復興計画への反映	摘 要	備 考
	坂元地区は国道6号を超えて水没したが、国道6号を移動する考えはないか。	×	津波被害を受けた坂元地区においては、国に対して国道6号の嵩上げ等を要望し、津波対策の強化を図ります。	住民説明会